

駆け出しのころ

中学3年生のころだっ

たと思います。学校で自分

にどのような職業が適

しているのかという適性

診断を受けると、その結

果は「土木の現場監督」

でした。このことが将来

の進路に土木を意識する

ようになったきっかけで

した。そして大学1年生

の時、青函トンネル工事

が題材の映画「海峡」を

観て、現場で多くの人た

ちをまとめ、工事を成し

遂げていく技術者の姿が

格好良く、土木の中でも

ものづくりに携わりたい

と考えました。

私が日本舗道（現NIPP

NIPPPO 取締役常務執行役員舗装事業本部長 山縣 裕氏

北東部に位置する蟹田出た。今でも感謝しており、張所（青森県）です。担 自分もこうした上司であ 当した改良道路の舗装工 りたいと思いついていま 事は竜飛崎に近く、そこ ます。

から海の方へは北海道 ます。まだ若かったころに、 を見ると、現場監督を志 技術員研修で先輩社員か ら聞いて強く印象に残っ た言葉があります。「大 切な社会インフラを担う われわれが、災害や事故 が起きた時にいち早く駆 け付け、発注者と一緒に 対応するのは当たり前。 その気概なくして『日舗 マン』ではない。後に自 分も同じような場面に遭 った後に帰っていかれまし 遇するのですが、こうし た教えもあつたおかげで 迅速に対応できました。

民間工事で特殊コンク リート舗装の施工に携わ った時のことです。水平 レベルで1ミという高い 精度が求められる難しい

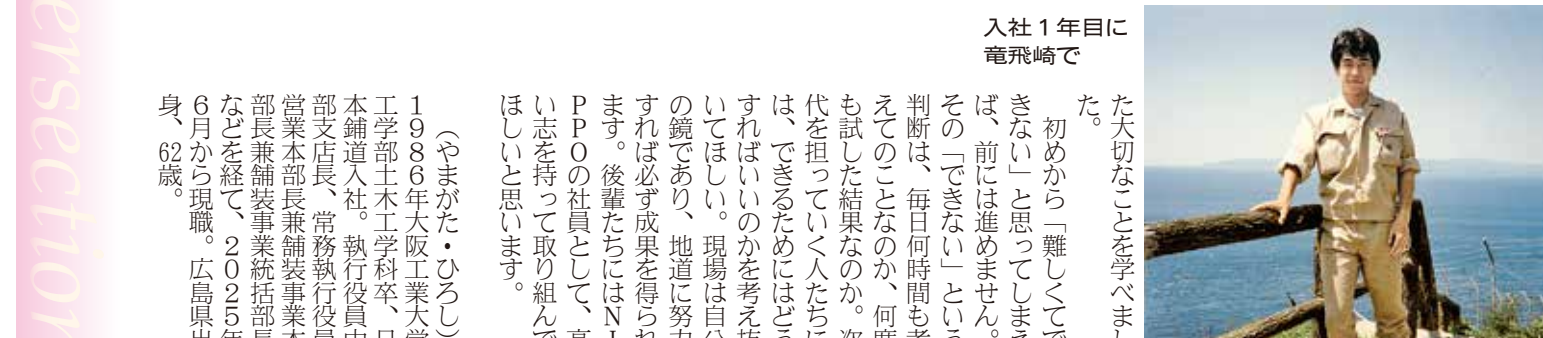
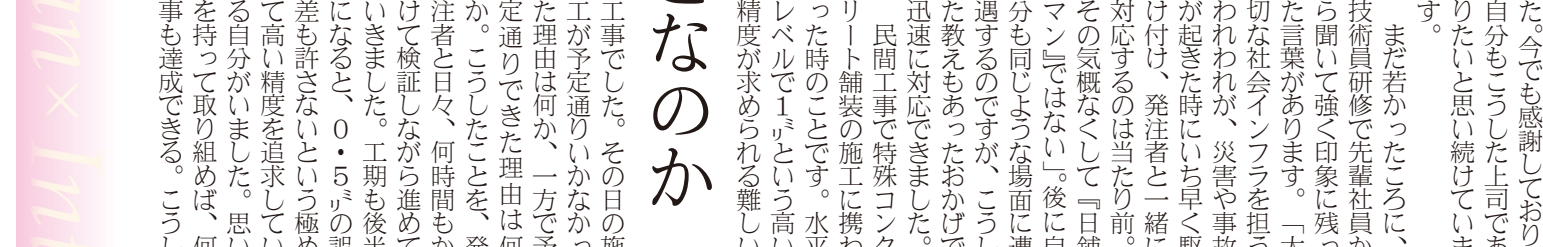
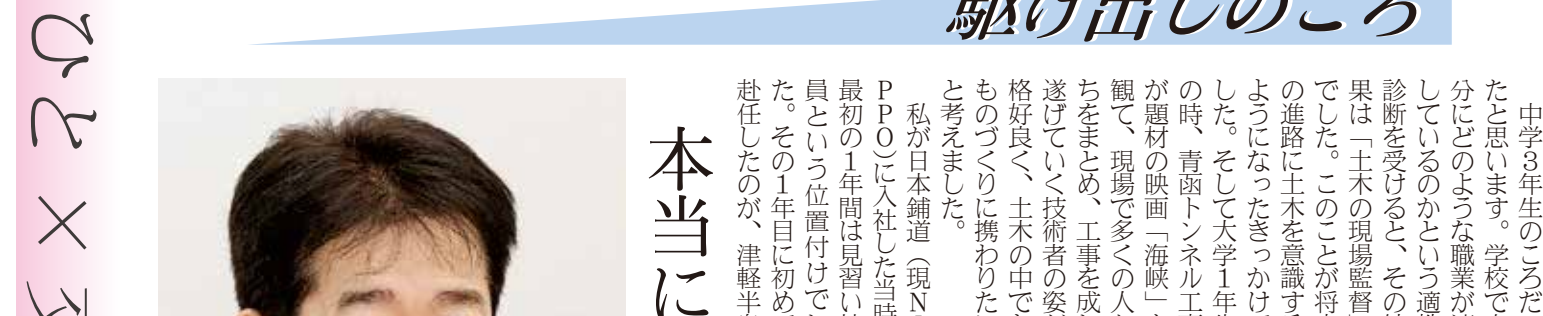
工事でした。その日の施 工が予定通りいかなかつ た理由は何か、一方で予 定通りできた理由は何か。こうしたことを、発 注者と日々、何時間もか けて検証しながら進めて きました。工期も後半 になると、0.5ミの誤 差も許さないという極め て高い精度を追求してい る自分がありました。思い を持って取り組めば、何 事も達成できる。こうし

入社1年目に 竜飛崎で

た大切なことを学べまし た。

初めから「難しくても できない」と思ってしまう ば、前には進めません。 その「できない」という 判断は、毎日何時間も考 えてのことなのか、何度 も試した結果なのか。次 代を担っていく人たちに は、できるためにはどう すればいいのかを考え抜 いてほしい。現場は自分 の鏡であり、地道に努力 すれば必ず成果を得られ ます。後輩たちにはNIPPPOの社員として、高 い志を持って取り組んで ほしいと思います。

(やまがた・ひろし)
1986年大阪工業大学 工学部土木工学科卒、日 本舗道入社。執行役員中 部支店長、常務執行役員 営業本部長兼舗装事業本 部長兼舗装事業統括部長 などを経て、2025年 6月から現職。広島県出 身、62歳。



ひと×交差点 Humanx Intersection